

卒業生インタビュー VOL.2

YANAGA YUTO
弥永雄翔



平成31年に本校を卒業した弥永くんが、
教育実習生として4年ぶりに本校に戻って
きてくれました。
今回は教育実習の感想や、本校在学中の様
子をお話ししてくれました。





自己紹介

立正大学文学部史学科
古代東洋史専攻。

専攻では特に隋唐期の
東西交流史を研究対象
にしています。趣味は
写真撮影、音楽鑑賞な
どです。

大学では写真サークル
の部長や文化団体連合
会という文化系サーク
ル統括団体の責任者を
務めました。

教育実習を終えて

あっという間に終わって寂しいというのが正直
なところでは。生徒（後輩）の皆さんと関わっ
ていた時は本当に1日が一瞬で終わる感覚でし
た。先生方の生徒への想いや生徒たちの笑顔、
教材研究など座学では感じる事ができない学
びを得ることができたと思います。

大学では、講義を受ける側に戻り、同期の友人
たちと講義を受けていますが、1日が長く、学
びの質が違っていると感じています。

生徒の印象

在学していた頃は、元気の良いすぎる生徒が多かったのですが、当時に比べてまじめで大人しい生徒が多くなった気がします。

3年生の授業で、いつも気怠そうな態度で受けていた男子生徒がいました。最初はつまらないからやっていないのかと思っていましたが、教室を見回る際に何気なくプリントを見ると、誰よりも答えに近いことを書いていました。また、発表の場では積極的に黒板に考えを書いてくれました。一見つまらなそうな態度でも、学ぶ姿勢はしっかりあるのだと驚きました。

実習中に受けた衝撃

最も印象に残ったことは体育祭です。先生方が体育祭前にグラウンドの水抜きをする姿に、体育祭を何とか実施してあげたいという一致団結した思いを感じ、学校は生徒のためにあるのだと改めて認識しました。また、普段は静かな2年2組が優勝した瞬間に見せた笑顔に、生徒の意外な一面を見る思いでした。



足立東高校に入学した理由は？

中学3年生の時の担任から「この成績ではどこにも行けない」と言われたからです（笑）。当時の評定平均はおそらく2.5～2.8程度で学年では落ちこぼれだったと思います。

高校ではどんな生徒だった？

高校では基本的に静かで、休み時間なども本を読んでいた。学校に行ってやることといえは本を読むか授業を受けるかといった感じの生活でした。

高校で印象に残っていることは？

先生方との日常での何気ない会話が最も印象に残っています。

社会の先生には古代ローマの話をよくしていただきました。今回、実習の指導教諭としてお世話になった鈴木善隆先生には、修学旅行で行った沖縄には首里城以外にも良い城がある、という話をしていただきました。国語の和田先生の万葉仮名やくずし字の話、理科の先生の大学時代の同期が化学室で食事をして体調を壊した話なども覚えています。

先生方が何気なく話してくれる自分の知らないことを知識として得ることは楽しかったです。

進学することになったきっかけは？

進級するにつれて評定が上がり、大学に行くこともできるかもしれないと思い始めたことと、歴史に関する小説や本を読む中で、好きな歴史をもっと学びたいと思ったことがきっかけです。

足立東高校の学びは生かされたか？

大学では、基礎・基本以上の知識が求められるので、苦しいことが多かったです。ただ高校での基礎がなければ大学の科目では単位を取ることが出来なかったとと思っているので、結果的には学び直しはとても重要でした。

大学での講義についていくために、1年生の頃は高校で使っていた世界史や日本史の教科書を持ち歩いていました。他の学生より知識や学力が低いと自覚し、常に気を張り続けていたので、今まで大学で単位を落としたことはありません。自分の学力をしっかりと自覚することも、足立東で身に付いたことであると思います。

足立東高校の魅力は？

普通科でありながら、5教科のみならず体験学習などを通して自分のやりたいことを模索し、3年からの進路活動につなげることができる点が魅力だと思います。



未来の足立東生にメッセージを！

「元気・本気・やる気」の3つのうち、「元気」は高校生なのでもっていると思います。残りの2つについては、やりたいことや将来目指すものに向かって「本気」で打ち込み、目の前の課題に対して「やる気」を見せれば、先生方は最善の指導をしてくれます。ぜひとも、より良い将来を得るための高校生活を送ってください。

